

対ラオス人民民主共和国 事業展開計画

2024年4月 現在

| | |
|---------------|-------------------------|
| 基本方針 (大目標) | LDC脱却を目指した自律的な経済社会基盤の強化 |
|---------------|-------------------------|

| | |
|----------------|--------------------------------|
| 重点分野1 (中目標) | 財政安定化をはじめとするガバナンス強化および分野横断的な課題 |
|----------------|--------------------------------|

| | |
|--|--|
| <p>【現状と課題】 ラオス政府は、国家社会経済開発計画において、マクロ経済安定化のメカニズムの改善、財務計画の強化、憲法及び法律の厳格な実施（法の支配に基づく国家発展）を重要項目としている。しかしながら、ラオスでは近年GDP成長率が鈍化しており、公的債務残高がGDP比で100%を超過する等、公的債務管理、公共投資管理、歳出入管理等、財政の健全化が喫緊の課題となっている。 また、ラオスは国民1人当たり投下された爆弾のトン数（1人当たり約1トン）が世界最大の不発弾汚染国であり、不発弾の存在が人々の安全を脅かすとともに、農地拡大やインフラ用地開発の阻害要因となっている。ラオス政府は国が提供するサービスの一つとして、特に汚染が深刻な9県を中心に不発弾除去活動を実施しているものの、十分な不発弾汚染調査とこれに基づく除去活動の進捗のためには、持続的な活動計画の策定と人材育成が引き続きの課題となっている。</p> | <p>【開発課題への対応方針】 マクロ経済の安定化や財政の安定、開発計画と予算編成の整合、グッドガバナンスは、分野横断的な課題として協力をを行う。具体的には、これまで実施してきた法整備支援や公共投資事業の管理能力強化に向けた支援に加え、歳入強化、財政健全化に向けた協力を注力する。 また、今後の開発事業を適切に遂行するための中央・地方行政能力の向上を支援する。 加えて、不発弾の効果的・効率的な除去推進のために関連組織の能力向上を図ると共に、除去活動費や必要な機材の整備等を支援する。</p> |
|--|--|

| 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | |
|---|--|-------------------------------------|-------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------|----|------|
| | | | | 2023 年度以前 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | | | | |
| 開発課題1-1 (小目標) ガバナンス強化 ガバナンス強化プログラム | 公共投資事業の運営管理手法の開発及び計画投資省の中央・地方の人材育成に加え、歳入強化や共同研究等、財政健全化に向けた財務省関係機関の人材育成や財務統計情報の整備を支援することで、公共財政管理の強化を図る。また、法の支配による市場経済化を視野に、社会や経済の実態に応じた法制度を整備していくため、法務・司法分野の人材及び組織の能力向上に向けた取組を支援する。不発弾の効果的・効率的な除去に向けて、技術協力と無償資金協力を組み合わせ、ソフト・ハード面の強化を図る。 | 公的債務とリスク管理のための財務省管理職向け能力強化 | 国別研修 | | ■ | | | | | | 8 | | |
| | | 公共投資計画管理改善アドバイザー | 個別専門家 | | | | | | | | 8 | | |
| | | UXO Laoの組織能力強化のための人材育成プロジェクト | 技プロ | | | | | | | | 18 | | |
| | | 債務管理アドバイザー | 個別専門家 | | | | | | | | 8 | | |
| | | リスク管理を通じた通関手続き能力向上プロジェクト | 技プロ | | ■ | | | | | | 8 | | |
| | | 税務行政能力向上アドバイザー | 個別専門家 | | ■ | | | | | | 8 | | |
| | | 法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2 | 技プロ | | | | | | | ■ | 5.00 | 16 | |
| | | メコン地域連結性強化のための税関効率性強化プロジェクト | 技プロ | | | | | | | | 8 | | |
| | | 社会経済発展をもたらす指導者のためのリーダーシップ強化研修プロジェクト | 技プロ | | | | | | | | 16 | | |
| | | 経済社会開発計画(不発弾処理関連機材の供与) | 無償 | | | | | | | | 5.40 | 18 | |
| | | 南部地域における不発弾除去の加速化計画(フェーズ1) | 無償 | | | | | | | | 8.00 | 18 | |
| | | 南部地域における不発弾除去の加速化計画(フェーズ2) | 無償 | | | | | | | | 4.00 | 18 | |
| | | 不発弾分野の日本NGO連携無償資金協力 | 日本NGO | | | | | | | | 0.41 | 18 | 計1案件 |
| 経済社会開発計画(ASEAN関連会議運営のための機材供与) | 無償 | | | | | | | | 5.00 | 16 | | | |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| 開発課題 2-2 (小目標) 安定的かつ安全な電力供給の拡大 | 【現状と課題】 ラオスは、豊富な水資源などその自然条件から包蔵水力の豊富な国であり、その高いポテンシャルを活かして電力の整備を進め、国内の電化率は8割を超える状況になっている。また、電力は主要な輸出産品であり外貨獲得源としても期待されており、独立系発電事業者（IPP）による発電事業が盛んに進められている。しかしながら、電源開発計画に基づいた電源および系統の整備が、持続的・効率的に実施できていない状況にある。今後は、IPPによる発電設備の整備に加え、国内の基幹送電系統、配電設備の整備、メコン地域の周辺諸国との電力融通拡大のための、系統運用の向上、高圧送電線等国際連系設備の整備を、国家計画に沿って行っていくとともに、電力セクター全体の財政健全化及び適切なガバナンス強化を図ることが課題となっている。 | 【開発課題への対応方針】 豊富な水資源を活用した電源開発の促進・電力網の整備及び適切な系統運用や電力融通による安定的かつ安全な電力供給の拡大を進めるため、電力運用の最適化、送電線網、配電設備の整備に向けた協力をを行い、持続可能な経済成長に資する産業インフラを整備するとともに、地域における競争力の向上に貢献する。また、メコン地域への電力輸出を促進するための系統整備や電力事業の管理能力の向上、規制枠組みの強化等についても取り組み、ラオス及び周辺国の経済発展及び歳入確保による国内の財政安定化に寄与する。 |
|--------------------------------------|--|--|

| 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | |
|-----------|--|--|--------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------|-----------|--|
| | | | | 2023 年度以前 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | | | | |
| 電力整備プログラム | 国内の基幹送電線、配電設備、メコン地域内の電力融通に向けた高圧送電線の整備に向け、主に有償資金協力を中心に取り組んでいく。電源開発については民間連携事業を中心に対応を検討する。また、電力事業の関係機関の能力強化について、ラオス側の取り組み状況などを踏まえ、主に技術協力を中心とする対応を検討する。 | ラオス国送配電系統運用改善に係る情報収集・確認調査 | 基礎情報調査 | — | | | | | | | | 7, 13 | |
| | | 炭素中立社会に向けた統合的エネルギーマスタープラン策定プロジェクト | 開発計画 | — | — | — | | | | | 2.80 | 7, 13 | |
| | | 電力政策アドバイザー | 個別専門家 | — | — | — | | | | | | 7 | |
| | | 電力公社経営マネジメント改善プロジェクト | 技プロ | — | — | — | | | | | | 7 | |
| | | 電力公社事業計画・財務管理アドバイザー | 個別専門家 | — | — | — | | | | | | 7 | |
| | | グリッドコード整備及び運用体制強化による電力品質向上プロジェクト | 技プロ | — | — | — | | | | | 5.00 | 7 | |
| | | メコン地域のクリーンエネルギー主流化に向けた電力供給管理システム整備計画準備調査 | 協準 | — | — | — | | | | | | 7, 13 | |
| | | ナムム第一水力発電所拡張事業 | 有償 | — | — | — | | | | | 55.45 | 7 | |
| | | モンズーン風力発電事業 | 有償 | — | — | — | | | | | | 7, 13, 17 | |
| | | 電力・エネルギーの自律的開発のための人材の育成（2021～2023年度） | 課題別研修他 | — | — | — | — | — | | | | 7 | |
| | | 資源国の行政・研究人材育成（2021～2023年度） | 課題別研修他 | — | — | — | — | — | | | | 12 | |
| | | 資源分野の人材育成プログラム（資源の絆）（2024～2026年度） | 課題別研修他 | — | — | — | — | — | | | | 12 | |
| | | 課題別研修他 | 課題別研修他 | — | — | — | — | — | | | | 7 | |

| | | | |
|----------------|---------------------------|---|--|
| 重点分野3 (中目標) | 産業の多角化と競争力の強化、そのための産業人材育成 | 【現状と課題】 ラオスの初等教育のアクセスは近年で大きな改善を見せており、純就学率（2023年、ラオス教育・スポーツ省）は97.7%に到達している。しかしながら、初等教育の修了率（留年せずに5年間で修了した児童の割合）は73.5%（2023年、同統計）であり、教科書の内容、教員の能力、学習環境、学校運営等、包括的な教育の質の改善が求められている。他方で、前期中等教育の純就学率は67.3%に留まり、前期中等課程1年生では1割以上の生徒が中退している（2023年、同統計）等、特に僻地を中心とする前期中等教育へのアクセス及び留年・退学等が課題となっている。また、高等教育については、国内最大の高等教育機関であるラオス国立大学においても、基礎的な設備及び教員の質・量等が不足している状況であり、産業界のニーズに対応した人材の輩出ができていない。教育スポーツ省の予算のうち経常予算の8割が教員の給与等の人件費によって占められており、教科書の印刷・配布等へ充当できる予算が限られていることも課題である。 | 【開発課題への対応方針】 ラオスが産業の多角化と競争力強化を目指す上で必要不可欠となる産業人材育成に向けて、基礎教育の質の改善及び高等・職業訓練教育の拡充を支援する。基礎教育については、初等教育の質的な改善を目指し、前期中等教育においてはアクセス改善に係る施設整備とともに教員の質の改善に向けた支援を行う。高等教育については、ラオス国立大学工学部のハード・ソフトの両面の支援を検討し、高等工学教育の向上を重点的に実施することを通じて、産業界が求める質・ニーズに合った人材の輩出を目指す。 |
|----------------|---------------------------|---|--|

開発課題3-1
(小目標)
基礎教育の充実及
び高等・技術教育
の拡充

| 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 |
|--|--|---|--------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------|------|
| | | | | 2023 年度以前 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | | | |
| 教育基盤強化プログラム | 基礎教育については、初等教育の質的な改善を目指し、算数の教科書・教師用指導書開発および教師教育を中心とした包括的な協力を進める。また、同時に前期中等教育のアクセスを改善するため、施設整備を行っていく。また、教育の質改善のため、教員養成の環境改善を通じた質の高い教員の育成を目指す。高等教育については、産業界が求める質・ニーズに合った人材を輩出できるよう、高等工学教育を重点的に支援をする。 | 初等算数授業改善のための教員指導力強化プロジェクト | 技プロ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 4.10 | 4 | |
| | | 県教員研修センター整備計画準備調査 | 協準 | ■ | ■ | | | | | | 4 | |
| | | 教員養成校改善計画 | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 19.12 | 4 | |
| | | ラオス国立大学工学部施設機材整備計画 | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 21.05 | 4 | |
| | | ラオス国立大学工学部施設機材整備計画（追贈） | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 3.95 | 4 | |
| | | 産業発展のための工学人材強化プロジェクト | 技プロ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 3.90 | 4 | |
| | | アセアン高度人材育成アドバイザー | 個別専門家 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 人材育成奨学計画（2020年度） | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 3.17 | 4 | |
| | | 人材育成奨学計画（2021年度） | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 3.13 | 4 | |
| | | 人材育成奨学計画（2022年度） | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 3.30 | 4 | |
| | | 人材育成奨学計画（2023年度） | 無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | 3.43 | 4 | |
| | | 人材育成奨学計画準備調査 | 協準 | ■ | ■ | | | | | | 4 | |
| | | 教育政策アドバイザー | 個別専門家 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践 | 草の根技協 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業 | 草の根技協 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 4 | |
| | | 子供たちが観察・記録・思考・伝達により「科学する力」を育むプロジェクト | 草の根技協 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業 | 草の根技協 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 教育・障害者・就労促進分野の日本NGO連携無償資金協力 | 日本NGO | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 3.73 | 4 | 計4案件 |
| | | 教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力 | 草の根無償 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | 計9案件 |
| | | 子どもの学びの改善（2024～2026年度） | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 4 | |
| | | イノベティブ・アジア（2021年度） | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 科学技術イノベーション人材育成（2021～2023年度） | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| | | 科学技術イノベーション人材育成（2024～2026年度） | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | |
| （ASEAN枠）科学技術イノベーション人材育成（2023-2027年度） | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 4 | | | |
| 課題別研修他 | 課題別研修他 | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | | | |
| 教員の指導能力向上に係るボランティア | JOCV | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | | | |
| 情操教育の発展と文化振興、スポーツ、武道の裾野の拡大と競技能力向上に係るボランティア | JOCV | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | 4 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|----------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|----------------|-------|--|
| 開発課題 3-2 (小目標) 民間セクター開発 | 【現状と課題】 2005年以降実質GDP成長率が7%前後と順調に経済発展を遂げ、コロナ禍を受けて2020年には0.5%まで落ち込んだものの2021年以降回復し、2023年には3.7%となっている。一方、輸出品の大半が鉱物、電力、木材などの一次産品に依存する構造であり、ラオス政府は工業化及び産業の多角化及び経済特区への外国投資誘致の促進に注力している。第9次国家社会経済開発計画（2021-2025）でも「製造業及びサービス業を発展させ、自立した強固な経済を実現する」ことが主要目標として掲げられており、国内の企業の90%以上を占める中小零細企業の振興を通じた産業多角化や雇用創出を念頭に、法制度や金融アクセス環境の改善、経営人材の育成等が課題となっている。 | | | 【開発課題への対応方針】 ラオスの産業多角化を推進し競争力の強化を図るため、投資促進及び産業政策策定に係る能力向上、産業人材育成、中小企業の起業・育成に必要な金融アクセス改善等の課題を対象に、民間セクター強化に向けたラオス政府の政策立案・実施等の組織能力の強化、留学を含む人材育成等を中心に協力に取り組んでいく。また、日本・ラオス両国における官民対話の推進にも留意する。 | | | | | | | | | | |
| | 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | |
| | 民間セクター強化プログラム | ラオスの民間セクター強化を推進するため、投資促進、産業人材育成、中小企業の起業・育成に必要な金融アクセス改善等について、留学事業も活用し、ラオス政府の人材育成や行政能力強化を図っていく。投資促進分野では、投資情報へのアクセス改善、投資家向けサービスの強化及びそれを実施するための行政能力の向上に係る支援を実施する。産業人材育成分野では、日本センターへの協力を中心に取り組み、日本的経営を軸とした実践的経営人材の育成、起業家の育成等を図る。中小企業振興分野では、専門家派遣を通じ、中小企業金融を中心に協力する。 | ラオス日本センタービジネス人材育成・ネットワーク強化プロジェクトフェーズ2 | 技プロ | 2023年度以前 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 | 3.75 | 8、9 | | |
| | | | 現地建機オペレーター育成による建機作業員とその周辺事業展開に関する案件化調査 | 案件化調査 | | | | | | | | | 4、8、9 | |
| | | | アジア地域投資促進・産業振興（2021年度） | 課題別研修他 | | | | | | | | | 8 | |
| | | | アジア地域投資促進・産業振興（2024~2026年度） | 課題別研修他 | | | | | | | | | 8 | |
| 課題別研修他 | | | 課題別研修他 | | | | | | | | | | | |
| 民間セクター強化に係るボランティア | | | JOCV | | | | | | | | | | | |
| 開発課題 3-3 (小目標) 農業開発 | 【現状と課題】 ラオスにおいて、農林水産業がGDPに占める割合は3割に留まるが、就業人口の約7割を占める重要な産業である。ラオス政府はこれまでの自給的農業から、自給と商品作物生産を組み合わせた農業への移行を目指しており、農業政策は食料安全保障の確保という観点から国民の栄養状態の向上や安心・安全で環境に配慮した農産物の安定供給、生産技術及び生産物の質の改善、そして商業的生産の振興へと力点を移しつつある。一方で、小規模農家が大半を占めるという現状では、一定水準以上の品質の農産物を安定的に生産・供給する体制が整っておらず、また、近年頻発する洪水や干ばつ等の気候変動による影響に脆弱である。また、優良種子の供給や技術普及に係る体制の未整備、農家の資金的余力のなさや技術向上への投資に対する消極的姿勢等の理由により、未だ市場の要求に応じた生産が行われているとは言いがたい。加えて、バリューチェーン構築のためには、物理的な流通インフラ整備、卸売・市場の機能強化、流通・販売網の多様化、検疫体制の強化に加え、政府、民間事業者、農業従事者等の広範囲な関係者が協力する枠組みの構築が重要な課題である。 | | | 【開発課題への対応方針】 食料安全保障の確保及び商品作物生産の振興を目指すラオス政府の政策的取組みを念頭に、農業インフラの整備から生産・マーケティング・加工・流通・販売までを視野に入れたバリューチェーン構築のため包括的な支援を行う。その際は、化学肥料や農薬が使用されていない農地が多く存在するラオス農業の強みを活かした安心・安全かつ地域域のある農産物の生産、農産物の安定供給のための農民組織の強化等に重点的に取り組むとともに、ASEAN経済共同体に向けて近隣諸国への輸出を目指した制度・体制面の強化を行う。また、農業を競争力ある産業として確立するため、国内外の民間セクターからの投資促進を図る。 | | | | | | | | | | |
| | 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | |
| | 農業開発プログラム | 流通・販売面も視野に入れたバリューチェーン構築という観点から、国内外のマーケットの動向を踏まえた商品作物の普及・生産性向上について、民間企業との相互補完的な関係の可能性も考慮のうえ、人材育成や制度整備に係る協力を展開する。無償資金協力を活用しての農業基盤整備もソフト面の支援との効果的組合せを念頭に検討する。 | 農業政策アドバイザー | | | | | | | | | 1,2 | | |
| | | | フードバリューチェーン強化プロジェクト | 開発計画 | | | | | | | | 2.80 | 2,12 | |
| | | | 品質保持技術を活用した農産物サプライチェーンの高付加価値化に係るニーズ確認調査 | ニーズ確認調査 | | | | | | | | | 1,2,9 | |
| | | | デザインプロセスを活用した持続的な観光商品の開発及び質向上プロジェクト | 草の根技協 | | | | | | | | | 2 | |
| 東南アジア地域地方創生とODAとの連携の可能性に係る情報収集・確認調査（ラオス国バイロット事業） | | | 基礎情報調査 | | | | | | | | | 2 | | |
| 官民協働による協同組合の設立・参加促進を通じた地域住民が主体となった未来づくり支援プロジェクト | | | 草の根技協 | | | | | | | | | 2 | | |
| 農村地域における生計の強靱性向上計画 | 無償 | | | | | | | | | 2.10 | 2 | 国連食糧農業機関 (FAO) | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---------------|---|------------------------------------|--|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------|-------|--------------------|
| | | 首都ピエンチャン上水道拡張計画 | 有償 | | | | | | | 102.71 | 6 | | | |
| | | ルアンパバーン市上水道拡張計画 | 無償 | | | | | | | 19.22 | 6 | | | |
| | | 有害廃棄物管理能力強化 | 個別専門家 | | | | | | | | 11,12,14 | | | |
| | | 観光促進分野の日本NGO連携無償資金協力 | 日本NGO | | | | | | | 1.09 | 8 | 計1案件 | | |
| | | 水供給分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力 | 草の根無償 | | | | | | | | 6 | 計2案件 | | |
| | | 観光開発・環境分野支援に係るボランティア | JOCV | | | | | | | | | | | |
| | | 【現状と課題】 ラオスは豊かな森林資源を有しており、ラオス政府は第9次国家社会経済開発5か年計画（2021-2025年）において環境保全を一つの柱としている。一方で、1940年代には70%以上を有していた森林率は、2010年には40%にまで減少するなど、自然環境の保全はラオスの最優先課題の一つである。かかる状況に対し、ラオス政府は、2005年に「森林戦略2020」を策定し、2020年までに70%の森林率の達成を目標に更なる取組み強化に取り組んできた。特に、ラオス政府は近年REDD+に対して積極的な取り組みを行っており、2008年にREDD+タスクフォースを設立し、世界銀行が設立した森林パートナーシップ基金への参加を表明している。さらに、日本やドイツ等の開発パートナーも情報整備、体制・制度整備等の支援を行っている。2013年8月に日ラオス両政府は「日・ラオス低炭素成長パートナーシップ」に署名し、二国間クレジット制度（JCM）を推進していくことに合意している。他方、近年ラオスは台風や大雨による水害等の自然災害に見舞われており、国家政府としてこれに対応する能力、社会インフラの強靱性が求められるようになってきている。 | | 【開発課題への対応方針】 ラオスの豊かな森林資源の保全を目指すため、REDD+等を効果的に活用しつつ、政策レベルから、森林資源・炭素情報整備、関係機関の能力強化等といった課題を中心に取り組むことにより温室効果ガスの吸収等により気候変動対策を促進する。その際に外部資金の活用や、他ドナーとの連携、日本の民間企業の進出なども想定した協力を目指す。また2022年末に採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」を踏まえ、生物多様性保全に資する又は生物多様性に配慮した取組を支援する。また、自然災害に対しては、発生時の緊急対応や復興支援に加え、防災・減災の観点からの対応の双方が求められるようになっており、道路やその他社会インフラの強靱化と共に、災害発生時の緊急対応資機材の供与や、緊急避難施設の整備、対応機関の能力向上等を合わせて行っていく必要がある。 | | | | | | | | | | |
| 開発課題4-2 (小目標) 森林保全・気候変動対策 | 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | |
| | | | | | 2023 年度以前 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | | | | |
| | 持続的な森林管理プログラム | REDD+等をラオス政府が効果的に活用できるよう政策立案、森林資源・炭素情報整備関係機関の能力強化等に対し、技術協力を中心に取り組んでいく。協力に当たっては、日本の民間企業の関与についても積極的に検討する。 | 効果的なREDD+資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト | 技プロ | | | | | | | | 4.00 | 13,15 | |
| | | | 課題別研修他 | 課題別研修他 | | | | | | | | | | |
| | その他個別の案件 | 頻発・増加する水害等の自然災害に対し、復旧・復興及び防災・減災、災害対応能力強化を図る。 | メコン河流域洪水・渇水対策計画 | 無償 | | | | | | | | 4.12 | 13 | メコン河委員会(MRC)連携広域案件 |
| | | | メコン河流域洪水対策能力強化計画 | 無償 | | | | | | | | 3.00 | 13 | MRC連携広域案件 |
| | | | 水害被災地域における学校及びその周辺地域の水と衛生に関する改善計画 | 無償 | | | | | | | | 2.50 | 11,13 | 国連児童基金(UNICEF) |
| | | | 水害被災地域における学校教育セクターの復旧・復興支援計画 | 無償 | | | | | | | | 2.50 | 11,13 | 国連児童基金(UNICEF) |
| 経済社会開発計画(防災・災害対応能力強化に資する資機材の供与) | | | 無償 | | | | | | | | 10.00 | 13 | | |
| 経済社会開発計画(防災関連機材の供与) | | | 無償 | | | | | | | | 10.00 | 13 | | |
| | | 環境保全分野の日本NGO連携無償資金協力 | 日本NGO | | | | | | | 0.47 | 1,12,15,16 | 計1案件 | | |

| 開発課題名 | 【現状と課題】 | | 【開発課題への対応方針】 | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|--|--|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|--|-------------|------|------|------|--|
| | ラオス政府は保健セクター改革戦略とフレームワーク 2013-2030 において、保健人材、保健財政、ガバナンスと管理、サービスデリバリー、保健情報システムを5つの優先分野とし、また、2025年までにユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) を達成することを目標に掲げている。保健MDGs指標はMDG1(栄養)を除き達成したものの、周辺国に比較して未だ劣悪な状況が続いている。この背景として、医療サービスの質の低さや人材育成制度の脆弱性、医療施設への物理的・経済的・社会的アクセスの悪さが挙げられている。 | | SDGsの達成、2020年までのLDC脱却に必要な貧困削減及び人的資源開発指数の改善、また、2025年のUHC達成に向けて保健医療の量と質の改善と国内格差是正に取り組む。具体的には、保健人材（免許登録制度、人材開発制度）強化、地域拠点病院を中心とするサービスデリバリー改善、そのための保健医療施設のサービスの質および財務管理の改善を重視した取り組みを行う。対象地域としては、中央の保健省及び教育病院と連携しつつ、これまでの協力アセットを基盤として南部地域を重点的に支援し、サービスアクセスの格差是正を目指す。 | | | | | | | | | | | | |
| | 協力プログラム名 | 協力プログラム概要 | 案件名 | スキーム | 実施期間 | | | | | | 支援額 (億円) | SDGs | 備考 | | |
| | | | | 2023 年度以前 | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | | | | | | |
| 開発課題 4-3 (小目標) 保健医療サービス強化 | 保健医療サービス強化プログラム | UHC実現に向け、技術協力を通じた医療サービスの質的向上のための支援、また医療人材の免許制度整備や人材育成制度強化や地域住民の医療サービスへのアクセス向上のための地方行政機能を支援する。また、無償資金協力を通じた医療施設・機材の提供等、ハード・ソフトを有機的に組み合わせた協力に取り組んでいく。さらに、制度整備と複数案件の成果を政策面へ反映させるため、保健政策アドバイザーを派遣する。 | 南部地域中核病院整備計画準備調査 | 協準 | | ■ | | | | | | | 3,17 | | |
| | | 病院の保健医療サービスの質および財務管理改善プロジェクト | 技プロ | ■ | ■ | | | | | | | 3.10 | 3 | | |
| | | 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト | 技プロ | ■ | ■ | | | | | | | 3.05 | 3 | | |
| | | 保健政策アドバイザー | 個別専門家 | ■ | ■ | | | | | | | | 3 | | |
| | | 保健政策アドバイザー | 個別専門家 | | | ■ | ■ | | | | | | 3 | | |
| | | 革新的技術を活用したマラリア及び顧みられない寄生虫症の制圧と排除に関する研究開発 (SATREPS) | 科学技術 | ■ | ■ | | | | | | | 3.50 | 3 | | |
| | | 交通事故から住民の命を守る救命救急活動支援プロジェクト | 草の根技協 | ■ | ■ | | | | | | | | 3 | | |
| | | 貧困僻地郡における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクト | 草の根技協 | ■ | ■ | | | | | | | | 3 | | |
| | | 保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力 | 草の根無償 | ■ | ■ | | | | | | | | 3 | 計4案件 | |
| | | 保健分野の日本NGO連携無償資金協力 | 日本NGO | ■ | ■ | | | | | | | 0.68 | 3 | 計2案件 | |
| | | 課題別研修他 | 課題別研修他 | ■ | ■ | | | | | | | | | | |
| | | 保健医療分野のボランティア | JOCV | ■ | ■ | | | | | | | | | | |

【凡例】 「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「基礎情報調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修、長期研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型、SATREPS))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(＝途上国の課題解決型ビジネス (SDGsビジネス) 調査)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「ニーズ確認調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」)、「ビジネス化実証事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」)、「実線「――」」(＝実施期間)、「破線「- - -」」(＝実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】 1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf